

オルガノン要約 § 13～21

§ 13 身体と生命エネルギーを分離したり、内的に隠れたものと考えたりすることはできない。

§ 14 病気の徴候と症状で、厳密に観察する医師に知られないものはない。これは神の善意でもある。

§ 15 生命エネルギーの病的状態とその表現である身体症状は同一のものである。それらはひとつの全体性を形成する。
理解しやすいように分けて考えるだけのことである。

§ 16 生命エネルギーは精神的でダイナミックなものなので、精神的でダイナミックなもの以外の影響を受けることはありえない。
注意深く観察し研究すれば、治療に必要なだけ完全に病気が示される。(§ 11 参照)

§ 17 症状の総体を取り除くこと＝病気の全体を根絶させること。
医師の使命は、いかにも学があるように見せかける無駄話をするのではなく、病気の人を治療することである。

(注) 相当に乱れた慢性病でも取り除くことができる。

(注) もし根絶できないとしたら神の知恵や善はないことになる。

レメディー (§ 18～34)

§ 18 適切なレメディーを指し示す唯一のものは、症状と付随的状況の全体像である。

§ 19 病気の定義：
病気とは健康状態が変化したもの。
レメディーは人間の感覚と機能を変化させることができるので、病気を治癒することができる。

§ 20 頭で懸命に考えたとしてもレメディーの内的で精神的なエネルギーは分らない。

§ 21 レメディーの定義：
レメディーは健康な人間の状態を変化させ、いくつかの特定の症状を生じさせるものに他ならない。
レメディーがどのようなエネルギーを持っているかはプルービングの情報だけをよりどころにしなければならない。